

高知工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)	授業科目	基礎英語IIB
科目基礎情報					
科目番号	B2004		科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1	
開設学科	SD 基礎教育・一般科目		対象学年	2	
開設期	後期		週時間数	2	
教科書/教材	教科書①：Learners' English Grammar in 25 Stages（数研），Build Up! Listening Book 2（美誠社），副教材：配布プリント 教科書②：Perspective English Communication II（第一学習社）副教材：Workbook＜Aコース＞，本文完成ノート，DataBase3000 基本英単語・熟語（桐原書店），総合英語 FACTBOOK（桐原書店），配布プリント，辞書				
担当教員	赤山 幸太郎,野中 美賀子				
到達目標					
1. 新しい語彙，文法，表現を身に付ける。 2. ある程度のまとまりのある簡単な文章を読み，理解することができる。（Reading） 3. ある程度のまとまりのある簡単な文章を聞き，理解することができる。（Listening） 4. 新しい語彙，文法，表現を使って簡単な文を正しく作ることができる。（Writing） 5. 英語で簡単な受け答えができる。（Speaking） 6. 英語を通して異文化を理解することができる。					
ルーブリック					
		理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安	
評価項目1 ＜Reading＞		ある程度のまとまりのある英文を読み，理解することができる。また，それらに関する英語での簡単な質問に，英語で答えることができる。	辞書を使用しながら，ある程度のまとまりのある英文を読み，理解することができる。また，それらに関する英語での簡単な質問に，英語で答えることができる。	辞書を使用しても，ある程度のまとまりのある英文を読み，理解することができない。また，それらに関する英語での簡単な質問に，英語で答えることができない。	
評価項目2 ＜Listening＞		ある程度のまとまりのある簡単な英文の内容を正しく聴き取り，理解することができる。	ある程度のまとまりのある簡単な英文の内容を聴き取り，概要を理解することができる。	ある程度のまとまりのある簡単な英文の内容を聴き取るうとしても，概要すら理解することができない。	
評価項目3 ＜Writing＞		身近な事柄や興味・関心のある内容を簡単な英文で正しく表現することができる。	身近な事柄や興味・関心のある内容を簡単な英文で表現することができる。誤りがあったとしても，指摘されれば，正しく書き直すことができる。	身近な事柄や興味・関心のある内容を簡単な英語で文意を伝えることができない。誤りを指摘されても，正しく書き直すことができない。	
評価項目4 ＜Speaking＞		身近な事柄や興味・関心のある内容に対して，口頭で正確に答えることができる。また自分から質問することができる。	身近な事柄や興味・関心のある内容に対して，多少の間違いがあっても，口頭で答えることができる。また自分から質問しようとする積極的な姿勢がある。	身近な事柄や興味・関心のある内容に対して口頭で答えることができない。また自分から質問しようとする積極的な姿勢も見られない。	
学科の到達目標項目との関係					
教育方法等					
概要	「基礎英語IA・B」「基礎英語IIA」で培った基礎力のうえに立って，英語の発音，語彙・表現，文法・構文の学習および英文の精読・速読・リスニングの演習を通して，英語力の更なる基礎固めを行う。同時に，英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。				
授業の進め方・方法	教科書本文を文型および修飾関係，構文，単語・熟語等を講義形式で確認しながら，演習形式で精読させることが中心。同時に，重要文法事項の復習を行う。適宜，リスニング，サイト・トランスレーション，シャドーイングなども取り入れ，聴解力，速読力，会話力も身に付けさせる。学生は定期的に，ペアワークやグループワークによる教え合い・理解の相互確認を行う。また，新出の文法事項，表現等を使った英作文で表現力も補強していく。更に，定期的に単語・熟語やリスニングの小テストを行い，語彙力および聴解力の増強もはかる。				
注意点	試験の成績70％，平素の学習状況等（課題・小テスト等を含む）を30％の割合で総合的に評価する。学期毎の評価は中間と期末の各期間の評価の平均、学年の評価は前学期と後学期の評価の平均とする。なお、通年科目における後学期中間の評価は前学期中間、前学期末、後学期中間の各期間の評価の平均とする。技術者が身につけるべき専門基礎として，到達目標に対する達成度を試験等において評価する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	①リスニングLesson7，関係詞 ②Lesson3: Amazing Tool Users	新出語(句)や表現、文法を用いた文を正しく読んだり、聴いたり、書いたり、それらを英語での会話に使用したりすることができる。	
		2週	①リスニングLesson9，関係詞（I） ②Lesson3: Amazing Tool Users	新出語(句)や表現、文法を用いた文を正しく読んだり、聴いたり、書いたり、それらを英語での会話に使用したりすることができる。	
		3週	①リスニング小テスト，関係詞（I・II） ②Lesson3: Amazing Tool Users	新出語(句)や表現、文法を用いた文を正しく読んだり、聴いたり、書いたり、それらを英語での会話に使用したりすることができる。	
		4週	①関係詞（II・III） ②Lesson3: Amazing Tool Users	新出語(句)や表現、文法を用いた文を正しく読んだり、聴いたり、書いたり、それらを英語での会話に使用したりすることができる。	
		5週	①関係詞（III） ②Lesson6: Taro's Suns Look Toward World Peace	新出語(句)や表現、文法を用いた文を正しく読んだり、聴いたり、書いたり、それらを英語での会話に使用したりすることができる。	
		6週	①速読演習（IV），関係詞まとめ ②Lesson6: Taro's Suns Look Toward World Peace	新出語(句)や表現、文法を用いた文を正しく読んだり、聴いたり、書いたり、それらを英語での会話に使用したりすることができる。	
		7週	①速読演習（IV〔続〕） ②Lesson6: Taro's Suns Look Toward World Peace	新出語(句)や表現、文法を用いた文を正しく読んだり、聴いたり、書いたり、それらを英語での会話に使用したりすることができる。	
		8週	後学期中間試験		

4thQ	9週	①リスニングLesson 1 0, 仮定法 ②Lesson6: Taro's Suns Look Toward World Peace	新出語(句)や表現、文法を用いた文を正しく読んだり、聴いたり、書いたり、それらを英語での会話に使用したりすることができる。
	10週	①リスニングLesson 1 3, 仮定法 (I) ②Lesson 7: Machu Picchu-City in the Clouds	新出語(句)や表現、文法を用いた文を正しく読んだり、聴いたり、書いたり、それらを英語での会話に使用したりすることができる。
	11週	①リスニング小テスト, 仮定法 (I・II) ②Lesson 7: Machu Picchu-City in the Clouds	新出語(句)や表現、文法を用いた文を正しく読んだり、聴いたり、書いたり、それらを英語での会話に使用したりすることができる。
	12週	①仮定法 (II) ②Lesson 7: Machu Picchu-City in the Clouds	新出語(句)や表現、文法を用いた文を正しく読んだり、聴いたり、書いたり、それらを英語での会話に使用したりすることができる。
	13週	①仮定法まとめ ②Lesson 7: Machu Picchu-City in the Clouds	新出語(句)や表現、文法を用いた文を正しく読んだり、聴いたり、書いたり、それらを英語での会話に使用したりすることができる。
	14週	①速読演習 (V) ②まとめ 1	新出語(句)や表現、文法を用いた文を正しく読んだり、聴いたり、書いたり、それらを英語での会話に使用したりすることができる。
	15週	①速読演習 (V [続]) ②まとめ 2	新出語(句)や表現、文法を用いた文を正しく読んだり、聴いたり、書いたり、それらを英語での会話に使用したりすることができる。
	16週	学年末試験	

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	英語運用の基礎となる知識	聞き手に伝わるよう、句・文における基本的なリズムやイントネーション、音のつながりに配慮して、音読あるいは発話できる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			明瞭で聞き手に伝わるような発話ができるよう、英語の発音・アクセントの規則を習得して適切に運用できる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			中学で既習の語彙の定着を図り、高等学校学習指導要領に準じた新出語彙、及び専門教育に必要な英語専門用語を習得して適切な運用ができる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			中学で既習の文法や文構造に加え、高等学校学習指導要領に準じた文法や文構造を習得して適切に運用できる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
		英語運用能力の基礎固め	日常生活や身近な話題に関して、毎分100語程度の速度ではっきりとした発音で話された内容から必要な情報を聞きとることができる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を基本的な表現を用いて英語で話すことができる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
			説明や物語などの文章を毎分100語程度の速度で聞き手に伝わるように音読ができる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

				平易な英語で書かれた文章を読み、その概要を把握し必要な情報を読み取ることができる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				日常生活や身近な話題に関して、自分の意見や感想を整理し、100語程度のまとまりのある文章を英語で書くことができる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、実際の場面で積極的にコミュニケーションを図ることができる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				実際の場面や目的に応じて、基本的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト)を適切に用いることができる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
		英語運用能力向上のための学習		自分の専門分野などの予備知識のある内容や関心のある事柄に関する報告や対話などを毎分120語程度の速度で聞いて、概要を把握し、情報を聞き取ることができる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				英語でのディスカッション(必要に応じてディベート)を想定して、教室内でのやり取りや教室外での日常的な質問や応答などができる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				英語でディスカッション(必要に応じてディベート)を行うため、学生自ら準備活動や情報収集を行い、主体的な態度で行動できる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				母国以外の言語や文化を理解しようとする姿勢をもち、教室内外で英語で円滑なコミュニケーションをとることができる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				関心のあるトピックについて、200語程度の文章をパラグラフライティングなど論理的文章の構成に留意して書くことができる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				関心のあるトピックや自分の専門分野のプレゼン等にもつながる平易な英語での口頭発表や、内容に関する簡単な質問や応答などのやりとりができる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				関心のあるトピックや自分の専門分野に関する論文やマニュアルなどの概要を把握し、必要な情報を読み取ることができる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15

				英文資料を、自分の専門分野に関する論文の英文アブストラクトや口頭発表用の資料等の作成にもつながるよう、英文テクニカルライティングにおける基礎的な語彙や表現を使って書くことができる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
				実際の場面や目的に応じて、効果的なコミュニケーション方略(ジェスチャー、アイコンタクト、代用表現、聞き返しなど)を適切に用いることができる。	1	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15
評価割合						
			試験	その他	合計	
総合評価割合			70	30	100	
基礎的能力			70	30	100	